

13. 床コンクリート直均し仕上げ

(1) 一般事項

コンクリート打設日の設
特に、夏季の気温が高い
裕を持てるようにする。
設定やポンプ車の手配を

して決める。

員に応じた人数を計画し、均しに余
打設が完了するように打設面積の

(2) 直均し

スランプ 18cm 以下の
一等でたたき込むか、
いを見て機械ゴテある
耐摩耗性向上や美観の
ともある。この場合は
金ゴテで押さえる。

直均し専門の熟練工が行い、タンパ
と木ゴテで平坦にして水引き具合
殊なコンクリート直仕上げとして、
からなる表面仕上材を使用するこ
等に散布し、水引き具合を見計らい

(3) フロー



(4) 施工数量

コンクリート打設数量
スラブ面積
ポンプ車 1 台の場合
当り出し 荒均し 定

(5) 施工精度

直仕上げレベル施工の
3.5m = 2 点間の高低差

85%以上

(6) 仕上げ程度の種別

床コンクリート打ちの
もの並びに防水下に適
床コンクリートゴテ仕
ただし、一般屋根防水

敷物、貼物等の下地で特記された
、特記がなければ A 種とする。

ゴテ仕上げの種

種 別
A 種
B 種

回数
金ゴテ
2 回
1 回

(7) 施工要領

1) 要点と注意事項

作業項目	内 容	注 意 事 項
ミーティング	当日に 合わせを	作業工具の確認 保護具の確認
コンクリート打設	打設の ド等を 打合わ	スラ コンクリートのスランプは、 バラつきの無いようにする。 打設速度は、構造物により異 なるので各所の時点で打設 速度を打合わせる。
レベル設置	レベル け	、鉄 -ム) こし を張 る
コンクリート 荒均し	土工が コン に を左官が行う	業共 コンクリートが山盛りにな ると定木擦りが困難となる ので山盛りにならないよう に土工に注意してもらう。

コンクリート 天端測定	レベルを見て行う	2m ~ 2.2m間隔にコンクリート天満を決める当たりを半径20 ~ 30cmにコ	バカ棒を持つ人は、垂直に立てるように注意する。
定水擦り	測定さ そって		2 . 状の に渡 ルと てい
木ゴテ押さえ	定木擦 残るの しをす		ムラ 押さ 蓋ま を取 える る。
機械ゴテ掛け	機械コ る面種 時、ま い事も		金ゴ くな 。
仕上げ	金ゴテ る		硬化 滑に け揃
養生	仕上げ 護する		
片付け	使用工 末 コンク 余った 理		テ等 た場 法で
その他	雨天の		れた 高さ コン 化し 補修

見

本

2) 施工

- a . コンクリート打設前には、回転式レーザ水準器、レーザ受光棒の準備、整備をする。

図 - 1

- b . 鉄筋や配管などの突起を削り取る。
c . 気温、天候、風などによる養生の準備をする。
d . 直ならし作業が夜間や雨のときは、養生を多めに設置し、施工精度を高める。
e . コンクリートは、一度に打設し、表面の凹凸が最小になるように仕上げをする。
f . スラブコンクリート打設後は、直ならしを行い（表面の骨ごてで荒ならしをする



図 - 2 粗

- g . コンクリートの水引は、回転式レーザ水準器、レーザ受光棒などにより要所ごとにレベルから定木ずり、木
h . コンクリート硬化が済んだら、直ならしをし、コンクリート面のタッピ
i . 硬化状態を見て、金ごてで押さえ、セメントペースト層を作り出す。（このとき、平たん



フェック

- じめ養生の準備をする。
り多く設置し、施工精度を高める。
ごとに打ち上げ、スラブ面の打継
らしをし、コンクリート面のタッピ
させる）、レベルから定木ずり、木



図 - 3 こてならし

- は回転式レーザ水準器、レーザ受
つけ、コンクリートの上に乗っても
沈まない程度の硬さのときに機械ごて（トロウエル）を2~3回往復させ、小むらをなくす。
硬化状態を見て、金ごてで押さえ、セメントペースト層を作り出す。（このとき、平たん

な床面に足跡を残さないように合板などを足元に敷くか、足に補足具を付けて作業する)
j . セメントペーストを出した後に、締め具合を見て金ごてで押さえ仕上げをする。



見

本